

メディアで紹介されました

抗インフルの紅茶開発

澤井珈琲 鳥大などと連携

あす発売

「テアフラティー」は、食品開発研究所が度々上げるとインフルエンザウイルスが減少することが分かり、効果を実証した。商品化に当たって

鳥大などと連携

鳥大は、食品開発研究所が度々上げるとインフルエンザウイルスが減少することが分かり、効果を実証した。商品化に当たって

「抗インフルの紅茶開発」は、食品開発研究所が度々上げるとインフルエンザウイルスが減少することが分かり、効果を実証した。商品化に当たって



「とろみ紅茶 テアフラティー」を披露する澤井社長（左）と景山教授。6日、米子市杭町1丁目の鳥取県西部総合事務所

「インフル予防効果」紅茶 産学官連携で商品化

市竹内団地、澤井幹雄社長が産学官連携で、ペットボトル入りの「とろみ紅茶・テアフラティー」を商品化した。活性物質を多く含み、インフルエンザの予防効果がある紅茶として売込む。

紅茶の成分「テアフラビン」の抗インフルエンザ作用を研究する鳥取大学医学部の景山誠二教授（ウイルス学）と、共同開発した。成分分析などで、鳥取県産業技術センター食品開発研究所（境港市中野町）の協力も得た。

澤井珈琲や景山教授によると、テアフラビンは「ポリフェノール」の一種で、緑茶に含まれるカテキンより抗酸化作用が強い。脂肪吸収の抑制作用のほか、インフルエンザウイルスに対する効果も実証されているという。

これを踏まえ、「とろみ紅茶・テアフラティー」は市販の紅茶より濃くすること、テアフラビンの含有量を2〜3倍に増加のど



新製品の「とろみ紅茶」開発を平井知事（左）に報告する澤井社長＝鳥取県米子市

紅茶に抗インフル成分

澤井珈琲 ポリフェノール多く

コーヒー豆の卸・小売りなどを手掛ける澤井珈琲（鳥取県境港市、澤井幹雄社長）は抗インフルエンザ作用がある成分を含む紅茶の販売を始めた。テ

アフラビンという抗インフルエンザ作用があるポリフェノールを通常の紅茶よりも多く含んでいるのが特徴。健康飲料としての需要を見込む。

商品名は「とろみ紅茶 テアフラティー」。鳥取大学医学部、鳥取県産業技術センター食品開発研究所の協力を得て開発した。通常の紅茶の2〜3倍のテアフラビンを含んでいるという。抗インフルエンザ作用を持続させるため、コンニャクイモから抽出した食物繊維でとろみを付けた。味はや

や濃い目。280ミリのペットボトルで250円。当面は鳥取県内などの直営店で扱い、インターネットでも通信販売する予定。韓国、台湾への輸出も計画している。初年度20万本の販売を見込む。